

附属施設紹介

Introduction of Facilities

クリニカル・スキルズ・センター（CCSC）

日本最大規模の研修施設

全ての医療専門職者を対象に初歩から高度まで様々な医療技術を実際に経験して学習することができ、それにより医療の安全性と患者満足度を高め、患者中心の医療を実現することを目的とした施設です。実際の診療と比べ、シミュレーションではシナリオを工夫したり、難しい技術をパーツに分けるなどすることで学習者のレベルに合わせた難易度に設定して練習したり、滅多に起こらないような状況を再現して繰り返し練習することもできることから、着実なスキルアップを図ることができます。

CCSCはシミュレータを利用して教育・研修を行うシミュレーション・ラボ、模擬患者 (Simulated Patient, SP) が参加して教育・研修を行うパフォーマンス・ラボ、献体によるご遺体を利用して教育・研修を行うアナトミー・ラボと動物を使用して教育・研修を行うアニマル・ラボで構成されています。



法医学教育研究センター 日本を代表する法医学専門家の養成拠点

法医学教育研究センターは、法医学領域において高度に専門化した実務を行う医師、歯科医師、薬剤師、検査技師等を養成することを目的とし平成26年度に設置されました。

法医学は解剖を実施するだけの学問ではありません。死因を究明するためには、解剖の他に、薬物検査、画像検査、血液及び尿の生化学的検査、DNA検査や歯科所見の採取といった検査が必要になります。これら検査を実施するためには独特な経験や熟練を要しますし、生体

試料とは異なる精度管理が必要とされますが、日本においてはそうした人材を育成する環境が乏しい状況にあります。また、多くの国では法医学は死体解剖のみを実施するのではなく、虐待を受けた子供やDVの被害者等を診察し、最悪な状態となる前に保護する仕事も担っておりますが、日本においては一部の大学を除きそのような体制は整っておりません、本センターは、そうした状況から脱却すべく、法医学を6つの専門領域に分け、それぞれにおいて実務者、教育者、研究

者としてのキャリアパスを形成することで、専門家を継続的に養成し日本の法医学領域のレベルアップをはかるべく設置されました。

法医学診断学基幹6部門

各部門、教授1名、准教授1名、大学院生

法医学診断学基幹6部門の設置とそれによる教育、連携の強化（臨床法医学の創設等により法医学への関心を高める）法医学者としてのキャリアパスモデルの形成、学内での各科連携、学外諸機関との連携。

法病理学	法中毒学	法遺伝学	法歯科学	法医画像診断学	臨床法医学 (新規分野の創設)
教育	教育	教育	教育	教育	教育
解剖・組織診断教育	薬毒物中毒教育・分析学者養成	DNA検査教育・DNA研究者養成	法歯科学教育・法歯科養成	法医画像診断教育	法医外来教育（傷害・虐待・暴行）
研究	研究	研究	研究	研究	研究
糸球体硬化度を用いた年齢推定方法に関する研究	多種類薬物の同時分析法の開発 骨・歯からの薬物検出法の研究	親子鑑定 ヒト奇生生物DNAを用いた出身地域推定法の開発	歯牙含有アミノ酸分析による年齢推定法の開発 安定同位体を用いた年齢推定方法の研究	死後造影検査法の確立 内視鏡を用いた死後血管内検査法の開発 被虐児の保護	他機関連携チームによる子ども虐待防止に関する研究
多岐分野にわたる専門領域横断型法医学者					

国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター カルフォルニア大学サンディエゴ校との共同研究センター設置

千葉大学は、新しい学術領域である「粘膜免疫・アレルギー治療学」を創成し、そこから得られる理論・技術を感染症・がん・アレルギー等の次世代型粘膜ワクチンの開発に結びつける試みに取り組んでいます。この「病気にかからない予防ワクチン（次世代型粘膜ワクチン）」の開発と、本領域の次世代を担うグローバルな研究者の育成の拠点として、世界屈指の粘膜免疫の研究者を有し、ノーベル賞受

賞者を多数輩出するカリフォルニア大学サンディエゴ校と共同で、研究センターを平成28年4月に双方の大学内に設置しました。

本研究センターを中心に最先端の免疫疾患・感染症の新規予防・治療開発を推進し、世界規模での健康増進、生活の質の向上、医療費の削減を目指しています。



千葉大学の4研究室が設置されたUCSDのバイオメディカルリサーチビルディング

超高齢社会研究センター 健康長寿社会の実現を目指して

我が国は平成19年に高齢化率が21%を超え、超高齢社会に突入しました。その中でも屈指のスピードで高齢化が進展している本県は、日本のみならず世界の健康長寿社会のモデルになり得る可能性を秘めています。

医学研究院では、「先進加齢医学寄附講座」、「認知症疾患医療センター」、「千葉県寄附研究部門 高齢社会医療政策研究部」が設置されるなど、以前から超高齢社会の諸問題に対し組織的対応を続けてきました。それらの活動をさらに

発展させることを目的に、平成26年4月1日に大学院医学研究院超高齢社会研究センターが設立されました。

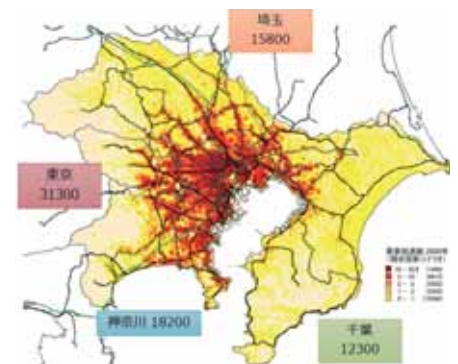
超高齢社会研究センターは、医学的アプローチを推進する「超高齢社会臨床部門」、社会的・自然科学的アプローチを推進する「超高齢社会疫学部門」の2つの部門から構成され、総合的に超高齢社会への対策を進めています。また、総合大学である本学の長所を生かし、各学部の高齢社会関連の研究室を始め、県内の自治体、関連職能団体、地元企業、

地域社会と協働し、医療・介護の質向上と安心して暮らせる健康長寿社会の実現を目指します。

超高齢社会研究センター

総合治療 老年内科（老年専門医） 医療政策研究 神経内科（認知症専門医）

臨床部門	疫学部門								
<p>包括的高齢者医療 在宅医療 エンドオブライフ医学</p> <p>医学的アプローチ</p> <p>超高齢社会に対応するQOLと臓器横断的視点を重視した高齢者医療の開発・実践と教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 医学部附属病院各専門診療科 臨床試験部製薬会社（臨床研究中核病院） 地域医療連携部総合医学教育センター（未来医療人材養成拠点） <p>新薬開発 高齢者の在宅医療の 治療法開発 疾患予防と治療 実践と教育</p>	<p>医療・介護需要予測，地域疾患管理，社会システム再構築</p> <p>社会科学的・自然科学的アプローチ</p> <p>超高齢社会を考える総合的シンクタンクとして，医療政策に関する研究に加え，人材育成，啓発活動にも注力する。</p> <p>高齢化対策のハブ拠点化</p> <table border="0"> <tr> <td>千葉大学他学部</td> <td>高齢化関連研究室</td> </tr> <tr> <td>千葉県</td> <td>民間団体</td> </tr> <tr> <td>地域社会</td> <td>関連職能団体</td> </tr> <tr> <td>地方自治体</td> <td>地元企業NPO</td> </tr> </table>	千葉大学他学部	高齢化関連研究室	千葉県	民間団体	地域社会	関連職能団体	地方自治体	地元企業NPO
千葉大学他学部	高齢化関連研究室								
千葉県	民間団体								
地域社会	関連職能団体								
地方自治体	地元企業NPO								



高齢者医療の全ステージに“面”で対応できるシステム構築と人材の育成

医療・介護の質向上と安心して暮らせる健康長寿社会の実現